



青森総合卸センターニュース

編集・発行 協同組合青森総合卸センター 〒030-0131 青森市問屋町2丁目17-3 ☎017-738-4711 FAX017-738-7323
URL http://www.tonyamachi.com E-mail info@tonyamachi.com 発行/2019年3月29日

働き方改革への対応を学ぶ

組合員昼食会



過去最多参加人数となった組合員昼食会

2月7日(木)に問屋町会館2階大会議室で組合員昼食会が開催され、過去最多となる組合員ら66名が参加した。組合では、組合員に有益となる様々な情報を提供すべく、組合員昼食会を定期開催している。今年度5回目となる今回は、4月に施行となる働き

方改革関連法案の概要や企業への対応等について学んだ。今回、説明してくれたのは、青森県労働基準協会の専務理事であり、青森県働き方改革推進支援センターのアドバイザーを務める平井氏。同氏は、企業が対応を迫られるポイントとして、残業時間の上限規

制、1人1年あたり5日間の有給休暇取得義務、労働時間の客観的把握を挙げた。その他、4月から新様式となる36協定やパート従業員の有給休暇取得等についても解説。最後に「各社で個別具体的な対応が必要と思われるので、不明な点については働き方改革推進支援センターに気軽に相談してほしい」と話した。

続いて、住友生命保険相互会社が、全国卸商業団地協同組合連合会の商団連グループ保険について説明。同グループ保険は、全国の卸団地の組合員が加入でき、手頃な掛け金で病気・災害に関する死亡や入院に対して保険金が支払われる。また、1年ごとに収支計算を行っており、余剰金



働き方改革について説明する平井氏

今回のセミナーでは、青森において、県や市らと連携してキャッシュレス化の実証実験を進める㈱Origamiの梶山氏を講師に招き、キャッシュレス決済の時流やメリット・デメリット、機能などを紹介。デモ機を使った実演も行った。



キャッシュレス決済セミナー

QRコードを使ったスマートフォン決済など、現金を使わずに買い物ができるキャッシュレス決済導入の動きが国内で広がりつつある。県内でもインバウンドの増加に対応すべく駅周辺などにおいて、県をあげて普及を進めている。

今回のセミナーでは、青森県において、県や市らと連携してキャッシュレス化の実証実験を進める㈱Origamiの梶山氏を講師に招き、キャッシュレス決済の時流やメリット・デメリット、機能などを紹介。デモ機を使った実演も行った。

キャッシュレス決済についての理解を深める

組合では、キャッシュレス決済について学ぶセミナーを2月13日(水)に開催。問屋町会館1階会議室で開かれた同セミナーには、組合員ら19名が参加した。

現在、生産能力は給食が2千7百食、配食3千食。ほぼ9割稼働となっており年々需要が高まっている。配送地域は、東青、津軽地区を中心に26市町村に及び、健康バランス食などのお弁当やそと食などの介護食も提供している。

QRコードを使ったスマートフォン決済など、現金を使わずに買い物ができるキャッシュレス決済導入の動きが国内で広がりつつある。県内でもインバウンドの増加に対応すべく駅周辺などにおいて、県をあげて普及を進めている。

組合では、キャッシュレス決済について学ぶセミナーを2月13日(水)に開催。問屋町会館1階会議室で開かれた同セミナーには、組合員ら19名が参加した。

今回のセミナーでは、青森県において、県や市らと連携してキャッシュレス化の実証実験を進める㈱Origamiの梶山氏を講師に招き、キャッシュレス決済の時流やメリット・デメリット、機能などを紹介。デモ機を使った実演も行った。

2019年度事業計画など承認
第11回理事会

2月28日(木)に問屋町会館において第11回理事会が開かれ、審議の結果、全て原案どおり承認された。

また事務局からは、除排雪費の中間報告や2019年度事業計画立案アンケート調査結果などについて報告を行った。

主な案件審議は次のとおり。
案件一：2019年度事業計画の骨子について

案件二：事業委員会からの意見について

団体内交流の輪が広がる
問屋町従業員親睦交流会

問屋町従業員親睦交流会が2月8日(金)にホテル青森で開催され、組合員従業員ら28名が参加した。同交流会は問屋町で働く人達の交流促進を図る目的で企画され、今回で7回目となる。

前回に引き続き、30代、40代の中堅社員を対象に開催された交流会では、自己紹介や2回の席替えを行うなど多くの参加者と親睦を深め、団体内交流の輪を広げていた。交流会では参加者により楽しんでもらえるよう毎回趣向



楽しく談笑する参加者



参加者全員で記念撮影

2月18日(月)に、今年度2回目となる問屋町ボルダリング教室が開催された。組合員であるK・フロスピ(株)が問屋町内で運営するボルダリング施設 (Glide Climbing) にて行われ、組合員従業員ら10名が参加した。施設内には登る難易度に応じたコースが多数あり、同施設スタッフからルール説明を受けたのち、参加者は簡単なコースから順番に挑戦した。腕の力だけでなく、頭脳も使って行うボルダリングに参加



ボルダリング教室

を凝らしたイベントを行っており、今回は、特別企画として県産米の食比べクイズを実施。かなりの難問で正解者は1人のみだったが、会場は大いに盛り上がった。希少県産酒コーナーやスイーツピュ

ツフェコナーも設けられ、様々な趣向を参加者は満喫していた。組合では今後も、団体内交流を促す事業を企画し、コミュニケーションの活性化を図っていく。

ボルダリングで冬期間の運動不足解消

参加者からは「冬期間は雪のため運動する機会がなかなかなく、室内で気軽に体を動かさせて楽しかった」との感想が寄せられた。

者は夢中になって何度もチャレンジしていた。

2019年度事業計画立案アンケート結果まとめ

組合の2019年度事業計画立案アンケート結果がまと

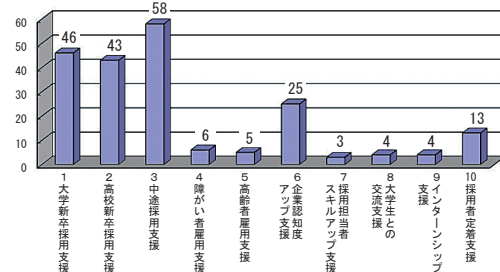
第二問屋町地区でも築30年以上経過する施設が増えてきている。今後、ますます建て替えや改修などに取り組む組合員が増えると思われ、組合で

共同駐車場区画線工事の実施が承認された
案件三：労務対策委員会からの意見について
案件四：組合員の合併の承認について
案件五：2018年度第12回理事会の日程等について
理事会終了後には青森問屋町配送(株)の第5回取締役会が開かれ、提出案件が全て原案どおり承認された。

望む声が多く、「企業の認知度アップ支援」(25社)が続いた。企業の人手不足感が高まる中、組合では、2019年から組合員の人材確保支援に積極的

に取り組む。その他、組合員の施設の課題についての調査では、47社の組合員が「老朽化」を挙げた。そのうち11社が今後の新築や増改築を計画していると回答。11社のうち4社が低利(2018年度金利0.5%)かつ20年の長期資金を調達できるとのこと。

【求人活動希望支援策】



は高度化資金の活用支援を含め、サポートしていく。

包装資材・厨房用品・ユニフォーム
ギフト用品・タオル等の総合商社
株式会社 金竹成家
代表取締役 成家昌弘
本社 青森市問屋町1-7-28 TEL 017(738)4701(代)
FAX 017(738)4706
営業所 弘前市神田2-3-7 TEL 0172(33)7171(代)
FAX 0172(33)7170

人と大地のハーモニー
ISEKI 農業機械販売
株式会社 中七本東北
青森支社
〒030-0131 青森市問屋町2丁目11-23
TEL 017(738)1331 FAX 017(738)8834

問屋町たんしん

今年も問屋町合同清掃がスタートします。

- 2019年度合同清掃実施日
第1回 4月11日(木)
第2回 5月9日(木)
第3回 6月13日(木)
第4回 7月11日(木)
第5回 8月8日(木)
第6回 9月12日(木)
第7回 10月10日(木)
午前8時から8時20分

問屋町内事業所の方は、問屋町会館ロビーへ、第二問屋町内事業所の方は青森産業会館駐車場へ午前7時50分までにお集まりください。

団地企業訪問

今回の団地企業訪問は、みちのくコカ・コーラボトリング(株)青森営業部長の工藤氏にお話を伺った。

同社は昭和37年11月に設立し、岩手・秋田・青森の北東北3県を事業エリアにコカ・コーラ製品の製造・販売を行っている。「当社ではお客様へ安全・安心な製品を提供することはもちろんのこと、適切な水分補給など、の飲料的な機能的な価値から、楽しさやリフレッシュメントなどの情緒的価値まで、製品を通じてお客様の生活に幅広い価値をお届けします。地域のスポーツチームやスポーツイベント、ねぶた等のまつりへの参加や協賛などを通じて、みなさまにそ

業務報告

主要事項

- 2月
3日▽第3回おほし雪灯りまつり
4日▽第12回景観推進管理委員
員会
▽問屋町新年合同厄払い
5日▽普通救命講習会
6日▽第4回とんやまち健康づくり実践塾
7日▽組合員昼食会
8日▽県流通団地連絡協議会
女子職員研修会
▽第7回問屋町従業員親睦交流会
12日▽青森県運営診断
▽市高度化事業団体連絡協議会地域産業懇談会
13日▽キャッシュユレス決済セ

- ミナー
▽青銀金友会総会・新年会
14日▽第4回事業委員会
15日▽金融審査会
▽翔友会・緑葉会合同新年会
▽青森産業会館ユザー会新春懇談会
16日▽簡易郵便局業務研究会
18日▽問屋町ボルダリング教室
19日▽第3回環境対策委員会
▽大星神社総代会
20日▽第3回労務対策委員会
22日▽東北卸団地連絡協議会事務局職員研修会
25日▽県経営者協会理事会・幹事会
26日▽仙台卸商センタートップセミナー
▽県中央会関係団体合同講演会・新年会
27日▽第2回企画情報委員会

問屋町 ビジネススクール

- ▽第3回税務研修会
▽青森県健康づくり担当者更新研修
▽市産業振興財団常務会
28日▽第11回理事会
▽青森問屋町配送(株)第5回取締役会
5日▽決算書の読み方・活かし方(損益計算書編)①
7日▽決算書の読み方・活かし方(損益計算書編)②
14日▽ストレスに悩まない7つの習慣
19日▽決算書の読み方・活かし方(CF計算書編)①
21日▽決算書の読み方・活かし方(CF計算書編)②



みちのくコカ・コーラボトリング(株)青森営業部長 工藤 貴功 氏

の場を楽しんでいたただけるようサポートし、地域の元氣な姿を支え続けます。更にコカ・コーラ社は東京2020オリンピックにおいてワールドパートナーを務めるとともに、聖火リレーのプレゼンティンクパートナーを務めます。500日を迎えた東京オリンピックを更に盛り上げ、今後「One Team(ワン・チーム)」の理念のもと、一緒に働く仲間やお客様、ビジネスパートナー、そして地域社会とともに持続的な成長を目指していきます」と話す。

「製品の種類が増えてきた中で、いま一番売上が伸びているのがミネラルウォーターやお茶です。当社の商品である「いろは・す」は北東北の豊かな自然が育んだ地元の水を使用しており、同製品の「りんご」は3月下旬にリニューアルされ青森県産りんごを使用しています。地元のおいしさを是非お試しください。また、今後の取り組みとして、シニア層をターゲットとした営業を考えると共に、グループ会社全体ではフ

「製品の現状について尋ねると「製品の種類が増えてきた中で、いま一番売上が伸びているのが

「青森は海と山が近く自然が多いため、食べ物がかく美味し

同氏の座右の銘は「大胆不敵」。「度胸がないと営業は出来ません」と話す。

(45歳)



みちのくコカ・コーラボトリング株式会社

本社

岩手県紫波郡矢巾町広宮沢1-279 TEL 019-698-3111(代表)

青森営業所

青森県青森市第二問屋町三丁目4番12号 TEL 017-739-3511

境建材株式会社

〒030-0131 青森市問屋町一丁目14番1号

本社 ☎(017)764-5581 F A X (017)728-7275

工事部 ☎(017)764-5585 左官材料・タイル専門 ☎(017)728-7266

Table with 2 columns: 商事部 (新建材全般、左官材料) and 工事部 (タイロイヤル、衛生器具、タイル)

不動産登記・調査・測量・境界確定

平尾測量登記事務所

土地家屋調査士 平尾 健吾

〒030-0919

青森市はまなす1丁目16番6号

TEL 017-718-4577 FAX 017-718-4578

JAC 未来をネットワークする www.jacopen.co.jp

ホームページ作成やサーバの運用管理は弊社データセンターにお任せください。

株式会社 青森共同計算センター

〒030-0113 青森市第二問屋町3-10-26

電話 017-771-1111 FAX 017-771-1123

卸団地の事務局職員が
集まり研修会開催

東北各県の卸団地が加盟する東北卸商業団地連絡協議会では、事務局職員研修会を2月22日(金)に仙台市で開催した。会場となった協仙台卸商センターには、各卸団地から16名の事務局職員が集まり、当組合からは西田業務課長と鶴谷職員が参加した。

研修会では、(有)元気サポーター代表取締役で社会保険労務士でもある伊藤祐子氏が「二億総活躍社会・働き方改革」が変えるこれからの働き方をテーマに講演。伊藤氏は「そう遠くない将来に現在



東北卸団地職員研修会

以上の危機的な人出不足になる。働き方改革への対応に出遅れた会社は決定的に労働力が不足する。今のうちにきちんと対策を講じてほしい」と話した。

講演後には意見交換会が行われ、各卸団地が現在直面している課題や対応事例について情報交換した。2月8日(金)には、県内の卸団地で組織される青森県流通団地連絡協議会が女子職員を対象とした研修会を弘前市で開催した。今回は県内だけでなく東北各地の卸団地からも参加。当組合からは成田総務課長代理と鎌田職員が出席し、総勢11名で研修が行われた。



女子職員研修会

研修会後の懇親会では、女性職員ならではの悩みを共有しあい、親睦を深めた。

経済雑感

第九十三回

株式会社 みちのく銀行
代表取締役頭取 藤澤 貴之

前号に引き続き、(株)みちのく銀行の藤澤頭取による経済雑感をお送りする。

「楽しく、かつこよく、稼げる農業」

「スマート農業」はAIやIoT、ロボットなどを活用し、農作業の効率化、付加価値の高い農産物の生産、そして農業所得の向上を目指す取り組みである。例えば、高性能カメラを搭載したドローンが飛行しながら取得する画像などの情報を、インターネットを通じて即座に地

上に転送し、AIが瞬時に情報を解析することで、病害虫の早期発見や生育管理が容易となる。病害虫の被害がピンポイントで特定できることから、その場所にのみドローンを使用し農薬を散布することが可能となる。農薬がほとんど含まれない、付加価値の高い農産物の生産は、間違いなく農業所得の向上につながる。



(株)みちのく銀行
代表取締役頭取
藤澤 貴之 氏

農産物をさらに差別化する取組みの一つとして、GAPの認証取得が挙げられる。この認証には様々な種類がある。「グローバルGAP」は世界基準の認証であり、食品安全や労働環境、環境保全に配慮した「持続可能な生産活動」を実践する

標準GAP認証制度「JGAP」の取得が必要となる。当行が推進する「スマート農業」では、こうしたGAPの認証取得に向けた支援として、農作業中にハンズフリーでスマートフォンなどへ作業記録を入力し、認証取得に必要なレポ

はしない。また、2020年開催の東京オリンピックの選手村で使う食材には、日本発の世界水準GAP認証取得が必要となる。当行が推進する「スマート農業」では、こうしたGAPの認証取得に向けた支援として、農作業中にハンズフリーでスマートフォンなどへ作業記録を入力し、認証取得に必要なレポ

1) 作成の負担を軽減する技術の提供なども行っている。昨年末には日本を含む11カ国によるTPPが、そしてこの2月にはEUとのEPAがそれぞれ発効となった。国や地域を越えた貿易がますます活発になると同時に、海外産品との競争力が日本にとっては大きな課題となる。農産物の付加価値を高め、価格競争力をつける一つの有効な手段として、「スマート農業」の果たす役割がさらに増していくはずである。

先日、我が家の食卓に「スマート米」が登場した。近い将来の農業が、楽しく、かつこよく、そして稼げる農業であることを願いながら、美味しく食させていただいた。(完)

編集後記

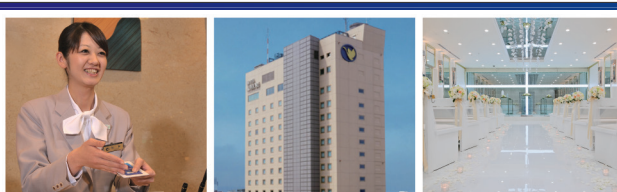
2月の組合員昼食会は過去最多の66名の参加でした。4月に迫った「働き方改革」への関心の高さが窺えました。▼今年後半には消費税の値上げも控え、企業にとってはダブルパンチ。経営サイドのみならず対応の現場となる総務・会計部門にとっては受難の年になりそうです▼転話題。前号に続き「中国製造2025」の衝撃についてです▼まず月裏面探査・量子暗号・量子通信衛星などの宇宙領域で中国が一步先を歩んでいることです▼2016年に中国は量子衛星「墨子号」を打ち上げ、人類初の量子暗号通信に成功し、今年2月には、この中国チームが米クリブランド賞を受賞しました▼問題は「暗号を制する者が世界を制する」と言われる中「量子通信衛星」を最初に打ち上げたのがアメリカや日本ではなく中国だったという事実です▼遠藤氏は「中国は(一帯一路)沿線国の内の発展途上国に代わって人工衛星を打ち上げ宇宙からそれらの国々を実効支配しようとしている」と指摘。5Gがどうのこうのと言っている場合ではないのです▼次は、欧米に留学した膨大な人材の中国帰国による「ハイテク産業のコア技術問題」です▼ファーウェイ以外にも、世界を席巻する可能性大の「BATIS」(バーティス)と称される1)自動運転の百度(Baidu) 2)スマートシティのアリババ(Alibaba) 3)医療画像認識の Tencent (Fencent) 4)音声認識のアイフライテック(Heytek) 5)顔認識のセンスタイム(Sense Time)の中国五大企業があります▼思う以上スピードで中国は着々と地歩を固めつつあるらしいのです。(藤本)

RAB開発株式会社

建築設計・監理/環境整備計画コンサルタント
情報設備・通信システムの企画、設計、施工

青森市第二間屋町3丁目2番35号
TEL 017-739-1666 FAX017-739-1664

http://www.rabkaihatu.co.jp



いつも変わらないおもてなしを。いつも新しい感動を。

HOTEL AOMORI ご予約・お問い合わせ | ホテル青森予約センター(9:00~20:00)
TEL.017-775-4007